

空の端

松本西夏

空の端の名もなき我にも初明かり
虫の音は虚空遙かに行き戻る
幾々の消せぬ思いや虫すだく
うしろにも行く手にも増す虫の声
わが生は如何と酔えば蚯蚓鳴く
柿葉落つ一片の舞い至芸とも
園庭の芙蓉が誘う億土行
片陰に咲き定まりぬ曼殊沙華

雨煙る曼殊沙華みち鐘を突く
夕溜まりきよらに浮かぶ彼岸花
彼岸花杖や車^{くる}椅子^まにしだかれし
晩秋の空つきぬける咳ひとり
詐欺メール重なり届く酷暑中
風死して陰謀めけるSNS
雷響みゲリラ豪雨の猛りくる
雷走る線状降水の帯名乗り
雷三つ頭上を走り火矢打てる
梅雨出水亀の甲羅を独楽のごと
ゲリラ雨川瀬の柳引き倒し
衣替え子の在りし日の長衣なり